

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

平成30年5月末	平成30年8月末	平成30年11月末見通し	平成31年2月末見通し
+93千トン [2342千トン] (108.2%)	-49千トン [2293千トン] (97.9%)	-23千トン [2270千トン] (99.0%)	-11千トン [2259千トン] (99.5%)
2294千トン (98.0)	2318千トン (101.1)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成30年6月末	平成30年9月末	平成30年12月末見通し	平成31年3月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 87,200 円で前年比+9,300 円、前期比では+900 円。需要は建築関係中心に堅調ながら店売りの荷動きが盛上らず全般的に横ばいで推移した。販売単価を押し上げるほどの盛り上がりは感じられない。需給のタイト感はなく、なんとか均衡を保っている状態であった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 88,700 円で前年比+9,800 円、前期比では+1,500 円。8月猛暑の熱中症対策での材料遅れ、9月は台風による入荷遅れ等の影響で仕入量が著減し、大幅な販売減となった。需要自体は建築中心に堅調だが、人手不足や運送問題で工期遅れが生じた。市況はなんとか強含み横這いを維持した。	10月ほどの品種も秋需のピークで9月販売減の反動もあり、予想以上の販売増に繋がった。11月も引き続き堅調に推移しており、前月比稼働日減の販売減に留まっている様子である。12月は冬場に入り、秋需の勢いは落ち着いているものの建築需要は引き続き堅調を維持している。メーカーの設備トラブルの影響で歯抜けサイズが出てきた。12月は稼働日数が少ないため販売減を不安視する企業もある。	建築需要は引続き堅調に推移するだろう。但し、ハイテンボルト、コラムの不足で工期遅れなどが懸念される。また、相次ぐメーカーの細かな設備トラブルで出荷遅れが生じ、需給はタイト化するだろう。スクラップ価格は下落傾向だが、電極などの副資材などのコストアップ要因もあり今後もメーカーの値上げスタンスは変わらない。流通は今ある在庫を大事に販売し価格転嫁に努めなければならぬだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

10月の仕入量は 210,770 トン前月比+23.5%、前年同月比+5.3%、販売量は 223,871 トン前月比+22.0%、前年同月比+10.0%。前月比では仕入販売とも著増、前年同月比は仕入増、販売著増でした。一方、在庫量は 220,744 トン前月比-5.6%、前年同月比-5.3%。在庫は前月比、前年同月比とも減少でした。在庫率は 98.6 ポイントと急下降。10月は秋需と台風による9月販売量の落ち込みの反動で予想以上の販売増に繋がった。10月の薄板三品在庫は426万4千トン。13万2千トン減少しているが、いまだ400万トンを超えている状況である。高炉メーカーの在庫はパンパンである。スムーズなデリバリーで納期対応がよくなれば流通も多少の価格転嫁ができるだろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 大きな需要の盛り上がり感はないものの、ベースサイズを中心に納期が延びており市中の在庫に品薄感が出てきたが、需要の力強さが欠けるせいか、価格はメーカーが希望する程の上昇力はない。来期は中小物件中心ながら、民間部門は堅調に推移するものと思われる。ハイテンボルト・コラム等の不足から工事に遅れが出ているような気配もあり、今後の動向が懸念されるが、建築需要は多く年度末まで堅調に推移すると予測される。

(愛知) 荷動きは10月から堅調が継続。建築関連の仕事も上向いており、当面はこの状況が続くそう。特に加工業務は繁忙状態で、輸送業務の繁忙と重なって納期対応が厳しくなっている。産機、建機も好調で、工作機械は国内向けと海外向けで少し温度差が出てきたが概ね好調を推移。市中の在庫も品種別、長さ別で歯抜けも見られるようになってきた。価格は底値が切りあがってきているが、仕入値高転嫁は十分でなく建築に関して入手難からゼネコン、ファブとも慎重になってきており、納期のないものは受注を控える傾向にあるので春先の需要に不安が残るのではと懸念している。